

JR四国グループ
中期経営計画2025の達成に向けた取組み

【2025年度第3四半期 報告書】

2026年2月20日
四国旅客鉄道株式会社

目次

本報告書は2020年3月に国土交通大臣より受領した指導文書に基づき、四半期毎に実施される国土交通省との検証結果を報告するものです。

1. 収支の状況

- (1) 2025年度第3四半期 連結決算
- (2) 2025年度第3四半期 単体決算

2. 主要施策KPIの達成状況

- (1) 主要施策KPIについて
- (2) 検証項目一覧
- (3) 2025年度第3四半期の検証結果（総括）
- (4) 2025年度第3四半期の実績等

1. 収支の状況

(1) 2025年度第3四半期（4月～12月）連結決算/前年度比較/グループ全体の状況

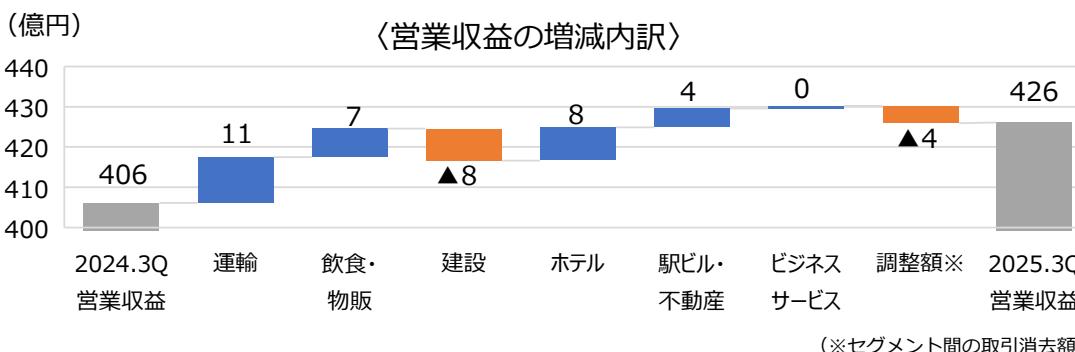
○決算の概況

瀬戸内国際芸術祭などの各種イベント開催による旅行需要の増加や各種增收施策を実施したことにより、「運輸」「飲食・物販」「ホテル」「駅ビル・不動産」「ビジネスサービス」セグメントにて営業収益が増加し、四半期純利益は連結・単体ともに黒字となりました。

○連結損益計算書

第3四半期累計			増減	比率(%)
	2024年度	2025年度		
営業収益	406	426	20	104.9
営業費	482	494	12	102.5
営業利益	▲ 76	▲ 68	7	—
営業外損益	123	141	18	115.0
経常利益	47	73	26	156.0
特別損益	▲ 0	▲ 0	0	—
四半期純利益	37	59	21	157.3
親会社株主純利益	37	59	21	157.3

(注)2024年度の親会社の営業費は人件費、動力費の単価などを実績に置き換えております。



●営業収益は、各種イベント開催に伴う旅行需要の増加を背景に「運輸」「飲食・物販」「ホテル」セグメントで增收となりました。また「駅ビル・不動産」セグメントではテナント賃料の増加により增收となり、「ビジネスサービス」セグメントでもグループ外からの売上が増加したことで增收となりました。一方、「建設」セグメントはグループ外からの工事受注が減少し減収となりましたが、グループ全体では前年度から20億円の增收となりました。

●営業費は、人件費や増収に伴う売上原価の増加に加え、多度津工場や賃貸用不動産などの新規取得に係る減価償却費などが増加しましたが、動力費が減少したことでの全体では12億円増加となりました。

結果、営業利益は68億円の赤字ではありますか、前年度より7億円改善しました。

●営業外損益は、機構への貸付が進捗したことによる受取利息の増加に加え、株式売却益の増加などから18億円の増加となりました。結果、経常利益は前年度より26億円増加し、73億円となりました。

●以上より、法人税等を加味した親会社株主純利益は21億円増加の59億円となりました。

(注) (株)基礎建設コンサルタント、四国医療器(株)、(株)津島工業の3社は2025年度期末決算から連結子会社化の予定のため、当第3四半期連結決算には含んでおりません。

【営業収益】5期連続の増収

【営業利益】2期ぶりの増益

【経常利益】3期連続の黒字、5期連続の増益

【親会社株主純利益】3期連続の黒字、2期ぶりの増益

1. 収支の状況

(1) 2025年度第3四半期（4月～12月）連結決算/前年度比較/セグメント別の状況

○セグメント情報

第3四半期累計	2024年度	2025年度	増減	(単位：億円)	
				比率(%)	
営業収益					
運輸	221	232	11	105.2	
飲食・物販	47	54	7	115.1	
建設	89	81	▲8	91.1	
ホテル	61	70	8	113.5	
駅ビル・不動産	44	49	4	110.7	
ビジネスサービス	69	70	0	101.0	
営業利益					
運輸	▲91	▲89	1	—	
飲食・物販	1	2	1	199.8	
建設	6	5	▲0	93.0	
ホテル	8	11	3	134.3	
駅ビル・不動産	▲0	2	2	—	
ビジネスサービス	1	2	0	152.4	

(注) セグメント別の数値には外部顧客との取引のほか、他セグメント間の取引も含んでいるため連結決算における増減内訳とは一致しておりません。

●運輸

瀬戸内国際芸術祭などのイベント開催により、鉄道及びバスの運輸収入が増加したため、増収増益となりました。

●飲食・物販

瀬戸内国際芸術祭などのイベント開催により、店舗販売収入が増加したため、増収増益となりました。

●建設

多度津工場の建築工事は増加したものの、松山駅高架化開業に伴い建築工事が減少し、またグループ外からの工事受注も減少したため、減収減益となりました。

●ホテル

インバウンドや瀬戸内国際芸術祭などのイベント開催により宿泊収入が増加したため、増収増益となりました。

●駅ビル・不動産

賃貸用不動産取得に伴う賃料収入に加え、「JR松山駅だんだん通り」開業に伴うテナント賃料収入が増加したため、増収増益となりました。

●ビジネスサービス

多度津工場等の設備工事が増加したことにより、グループ外からの売上も増加したため増収増益となりました。

1. 収支の状況

(2) 2025年度第3四半期（4月～12月）単体決算/前年度比較/当社全体の状況

○単体損益計算書

第3四半期累計			(単位：億円)	
	2024年度	2025年度	増減	比率(%)
営業収益	225	237	12	105.5
鉄道運輸収入	175	185	9	105.7
その他収入	49	51	2	104.8
営業費	318	328	10	103.3
人件費	102	108	5	105.8
動力費	20	18	▲ 2	88.1
業務費	65	64	▲ 1	98.4
修繕費	59	60	1	102.6
諸税	10	11	1	116.4
減価償却費	60	64	4	107.9
営業利益	▲ 92	▲ 91	1	—
営業外損益	129	149	20	115.5
基金運用益	87	107	20	123.7
(運用利回り %)	(5.56)	(6.88)	(1.32)	—
特別債券利息	26	18	▲ 8	69.0
経常利益	36	58	21	160.7
特別損益	0	0	▲ 0	53.0
税引前四半期純利益	36	58	21	160.6
四半期純利益	31	49	17	154.8

(注)2024年度の人事費、動力費は単価などを実績に置き換えております。

●営業収益について、瀬戸内国際芸術祭などのイベント開催により鉄道運輸収入は9億円増加しました。また分譲マンション販売は減少したものの、賃貸用不動産の取得や「JR松山駅だんだん通り」開業等に伴う不動産賃料収入が増加したことから、その他収入も2億円の増収となりました。

●営業費は、動力費や分譲マンションの売上原価の減少により業務費は減少した一方で、人件費の増加に加え、修繕費(旧松山駅撤去工事費)や、多度津工場近代化に伴う建替等による資産取得によって減価償却費が増加したことなどから、10億円の増加となりました。

結果、営業利益は91億円の赤字ではありますが、前年度より1億円改善しました。

●営業外損益は、機構への貸付が進捗したことによる受取利息の増加に加え、株式売却益の増加などから20億円の増加となりました。

結果、経常利益は前年度より21億円増加し、58億円となりました。

●以上より、法人税等を加味した第3四半期純利益は17億円増加の49億円の黒字となりました。

【営業収益】5期連続の増収（鉄道運輸収入は5期連続の増収）

【営業利益】2期ぶりの増益

【経常利益】3期連続の黒字、5期連続の増益

【四半期純利益】3期連続の黒字、2期ぶりの増益

1. 収支の状況

(2) 2025年度第3四半期（4月～12月）単体決算/前年度比較/事業別の状況

○事業別

(単位：億円)

第3四半期累計	2024年度	2025年度	増減	比率(%)
鉄道事業				
営業収益	198	208	9	104.9
営業利益	▲ 92	▲ 92	0	—
関連事業				
営業収益	26	29	2	109.7
営業利益	▲ 0	1	1	—

●鉄道事業

瀬戸内国際芸術祭などのイベント開催により鉄道運輸収入が増加したことから、営業収益は9億円の増加となりました。

営業費は、動力費は減少したものの、人件費や旧松山駅撤去工事費の増加に加え、多度津工場近代化に伴う建替等による資産取得によって減価償却費が増加したことなどから、9億円増加しました。

結果、営業利益は26百万円の改善となりました。

●関連事業

賃貸用不動産取得や「JR松山駅だんだん通り」開業に伴う不動産賃貸収入が増加したことから、営業収益は2億円の増加となりました。

営業費は、分譲マンションの売上原価が減少した一方で、賃貸用不動産取得に伴い減価償却費が増加したことなどから92百万円の増加となりました。

結果、営業利益は1億円の増加となりました。

2. 主要施策KPIの達成状況

(1) 主要施策KPIについて

中期経営計画2025の最終年度として、今年度の主要施策に対するKPI及びKGIを設定し、本検証の対象としました。

<KPI (Key Performance Indicator) とは、最終的な目標 (KGI : Key Goal Indicator) を達成するための過程を計測する中間指標です>

(2) 検証項目一覧

	KPI項目
鉄道運輸収入の安定的な確保	① 鉄道運輸収入の確保 (総額) ② 鉄道運輸収入の確保 (定期) ③ 鉄道運輸収入の確保 (定期外) ④ チケットアプリの定着・拡大 (定期) ⑤ チケットアプリの定着・拡大 (定期外) ⑥ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大 ⑦ 連結売上高の確保
非鉄道事業における最大限の収益拡大	⑧ (株) JR四国ホテルズの売上高 ⑨ 高松オルネのテナント売上高 ⑩ 四国キヨスク(株)の売上高
生産性向上・その他	⑪ コスト削減の取組み

2. 主要施策KPIの達成状況

(3) 2025年度第3四半期(10月～12月)の検証結果（総括）

- 検証項目11項目のうち、9項目でKPIを達成、2項目で不達成となりました。
- 「鉄道運輸収入の安定的な確保」と「非鉄道事業における最大限の収益拡大」については、瀬戸内国際芸術祭や大阪・関西万博、あなぶきアリーナ香川でのイベント開催にあわせた各種施策の展開、高徳線うずしおアンパンマン列車の運行開始などにより需要の喚起・確保に努めたほか、「高松オルネ」や「JR松山駅だんだん通り」での継続的なイベント開催、シーズンプロモーションなどに取り組み、収益の確保・拡大に努めました。これらの結果、多くの項目でKPIを達成しました。
- 「生産性向上・その他」については、グループ一体でコスト削減に取り組み、KPIを達成しました。
- 引き続き、各種施策の取組みを積極的に行い、KGI達成を目指します。

2025年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI	実績	達成状況	
鉄道運輸収入の安定的な確保	① 鉄道運輸収入の確保 (総額)	1Q	56.2億円	58.6億円	104.2% ○
		2Q	60.3億円	62.9億円	104.4% ○
		3Q	61.2億円	64.1億円	104.7% ○
		4Q	57.1億円		
		KGI	235.0億円		
	② 鉄道運輸収入の確保 (定期)	1Q	12.4億円	12.5億円	100.7% ○
		2Q	12.3億円	12.3億円	100.0% ○
		3Q	12.3億円	12.2億円	99.2% ×
		4Q	10.9億円		
		KGI	48.1億円		
	③ 鉄道運輸収入の確保 (定期外)	1Q	43.7億円	46.0億円	105.3% ○
		2Q	47.9億円	50.6億円	105.6% ○
		3Q	48.9億円	51.8億円	106.1% ○
		4Q	46.1億円		
		KGI	186.8億円		
	④ チケットアプリの定着・拡大 (定期) ＜発売枚数の割合＞	1Q	24.0%	23.4%	▲0.6ポイント ×
		2Q	25.0%	23.5%	▲1.5ポイント ×
		3Q	26.0%	24.5%	▲1.5ポイント ×
		4Q	29.0%		
		KGI	26.0%		

2025年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI		実績		達成状況	
鉄道運輸収入の 安定的な確保	⑤ チケットアプリの定着・拡大 (定期外) ＜発売枚数の割合＞	1Q	5.5%	5.6%	+0.1ポイント	○	
		2Q	5.7%	6.3%	+0.6ポイント	○	
		3Q	5.9%	7.0%	+1.1ポイント	○	
		4Q	6.1%				
		KGI	5.8%				
	⑥ 観光列車を活用した特別企画の実施、 情報発信による流動拡大 ＜観光列車乗車人員＞	1Q	14,500人	14,037人	96.8%	×	
		2Q	15,000人	13,985人	93.2%	×	
		3Q	15,000人	15,546人	103.6%	○	
		4Q	9,000人				
		KGI	53,500人				
最大限の収益拡大 における 非鉄道事業	⑦ 連結売上高の確保 ＜累計＞	1Q	130億円	134億円	102.9%	○	
		2Q	269億円	278億円	103.1%	○	
		3Q	409億円	426億円	104.2%	○	
		4Q	560億円				
		KGI	560億円				
	⑧ (株) JR四国ホテルズの売上高	1Q	19.2億円	20.6億円	107.1%	○	
		2Q	20.8億円	22.5億円	108.4%	○	
		3Q	21.9億円	25.8億円	117.4%	○	
		4Q	18.3億円				
		KGI	80.4億円				

2025年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI	実績	達成状況
最大限の収益拡大における 非鉄道事業	⑨ 高松オルネのテナント売上高	1Q	14.8億円	15.3億円 103.6% ○
		2Q	14.4億円	16.2億円 112.0% ○
		3Q	14.5億円	16.7億円 115.4% ○
		4Q	13.8億円	
		KGI	57.6億円	
	⑩ 四国キヨスク（株）の売上高	1Q	12.2億円	13.6億円 111.2% ○
		2Q	14.0億円	15.8億円 113.3% ○
		3Q	15.1億円	15.6億円 103.1% ○
		4Q	14.8億円	
		KGI	56.3億円	
生産性向上 その他	⑪ コスト削減の取組み	1Q	JR四国▲47百万円 グループ会社▲5百万円	▲65百万円 ▲15百万円 ○
		2Q	JR四国▲54百万円 グループ会社▲5百万円	▲83百万円 ▲19百万円 ○
		3Q	JR四国▲60百万円 グループ会社▲5百万円	▲77百万円 ▲13百万円 ○
		4Q	JR四国▲59百万円 グループ会社▲5百万円	
		KGI	JR四国▲219百万円 グループ会社▲20百万円	

2. (4) 2025年度第3四半期の実績等

①②③ 鉄道運輸収入の確保

<事業計画（230億円）を上回るチャレンジ目標を設定>

3Q KPI		実績	達成状況	2025年度 KGI		実績	達成状況
鉄道運輸収入	① 総額	61.2億円	64.1億円	104.7%	○	① 総額	235.0億円
	② 定期収入	12.3億円	12.2億円	99.2%	×	② 定期収入	48.1億円
	③ 定期外収入	48.9億円	51.8億円	106.1%	○	③ 定期外収入	186.8億円

◆検証結果

- 大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭にあわせた関連ポスターを駅頭や列車内で掲出するとともに、関連商品の増売に努めました。
- 高徳線うずしおアンパンマン列車を運行開始し、四国内外の流動拡大を図りました。
- 「アプリdeおトクにキャンペーン」の第2弾として「スマえきde超トク！きっぷ」を発売し、四国内の特急利用を促進しました。
- 「四国の秋！WESTER ポイント大収穫祭！『総額 100 万ポイントが当たる！キャンペーン』」を実施し、秋の鉄道旅行を推進しました。
- 年末年始期間に「しおかぜ・南風」指定席を増やし、着座による快適な旅行を提供しました。
- あなぶきアリーナ香川でのイベント開催時の需要を着実に取り込みました。
- 上記の取組みのほか、天候に恵まれ収入に大きな影響がある輸送障害が起きなかつたことから、KPI（①、③）を達成しました。

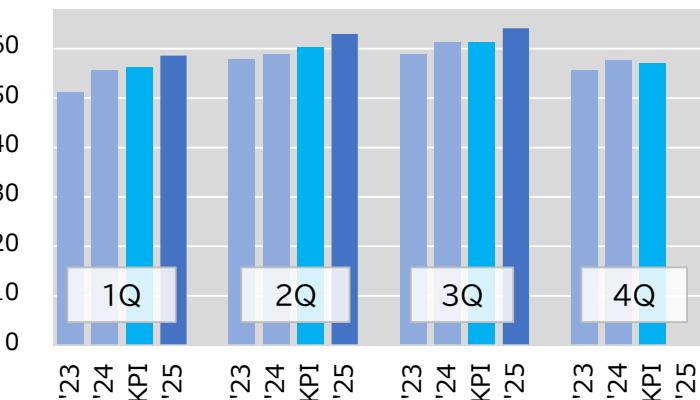
訪日外国人向けパス（ALL SHIKOKU Rail Pass）の販売枚数は、4,724枚（対前年101.4%）となりました。

◆今後の取組み

- 関係各所との協力により各種営業施策を着実に積み重ねることにより、収入の確保および更なる上積みを図ります。

(億円)

鉄道運輸収入（総額）の推移



④⑤ チケットアプリの定着・拡大

3Q KPI		実績	達成状況	2025年度 KGI		実績	達成状況
発売枚数に占める ④ 定期	26.0%	24.5%	▲1.5% イト ×	発売枚数に占める ④ 定期	26.0%		
スマえきの割合 ⑤ 定期外	5.9%	7.0%	+1.1% イト ○	スマえきの割合 ⑤ 定期外	5.8%		

◆検証結果

- 3Qでは「アプリdeおトクにキャンペーン」第2弾として、特急列車自由席をおトクにご利用いただけるきっぷの発売や、キャンペーン終了後も、冬の休暇中におトクに四国観光をお楽しみいただける「若者限定四国フリーきっぷ」をアプリ限定で発売するなど、紙のきっぷからの移行促進を図りました。
- また、ショッピングセンター等でのイベントにも積極的に参加し、チケットアプリの認知度向上に努めました。
- これらの結果、定期外については、KPIを達成した一方で、定期については、目標に届かず不達成となりました。
- アプリ会員数は、Web媒体、駅や車内での積極的なPRにより、引き続き増加しています。

◆今後の取組み

- 「スマえき」×「J-WESTカード」春のご利用キャンペーン（右図）を実施し、利用促進に向けたPRを行います。
- 閑散期の2月限定で特におトクな特別企画商品「スマえき平日1日バス」を発売します。
- 定期券の移行率向上に向けては、更新時期に合わせたTVC、Web媒体や駅、車内での積極的な情報発信に努めるとともに年度末から新年度にかけて、新入生に対する一括発売を実施します。



はじめて
ご利用キャンペーン

期間中、JR四国チケットアプリ「スマえき」から
はじめて「J-WESTカード」のクレジット払いで
合計10,000円(税込)以上のおきっぷや定期券を
ご購入いただいたお客様に、

もれなく
500
P WESTER ポイント
プレゼント!

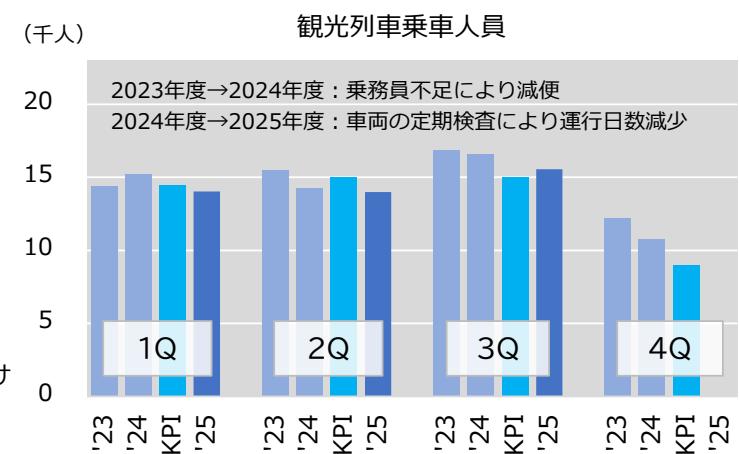
2026年
2月16日(月)～4月15日(水)

2. (4) 2025年度第3四半期の実績等

⑥ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大

3Q KPI	実績	達成状況	2025年度 KGI	実績	達成状況
観光列車乗車人員 15,000人	15,546人	103.6% ○	観光列車乗車人員 53,500人		

- ◆検証結果
- ものがたり列車ではハロウィンやクリスマスなど季節にあわせた催し物を実施し、集客に努めました。
 - 「藍よしのがわトロッコ」は、渓谷美を楽しめる大歩危までの延長運転が好調でした。
 - 天候に恵まれ、海外及び国内旅行会社による団体ツアーの貸切運行が好調だったため、KPIを達成することができました。
 - 「志国土佐 夜明けのものがたり」では10月乗車分から「e5489」での座席販売を開始し、利用率は17.1%となっています。車内アンケートでは他の2列車でも実施してほしいという声も上がっており、ご好評いただいています。
- ◆今後の取組み
- 「四国まんなか千年ものがたり」「志国土佐 夜明けのものがたり」では、アテンダント企画の特別運転に向けて、内容の調整と、雑誌やSNS広告などの広告宣伝を実施し集客に努めます。
 - ものがたり3列車で毎年好評の菜の花や桜の特別運転を計画し、乗車率の維持に努めます。
 - 「藍よしのがわトロッコ」の春季運転に向けて、好評の大歩危までの延長運転の運転日拡大に向けた調整や、弁当の見直し、車内販売用の新規商品の開発を行います。
 - ものがたり列車専用ホームページを作成し、ブランド力の向上に取り組みます。
 - 「伊予灘ものがたり」「四国まんなか千年ものがたり」において「e5489」での座席販売を検討します。

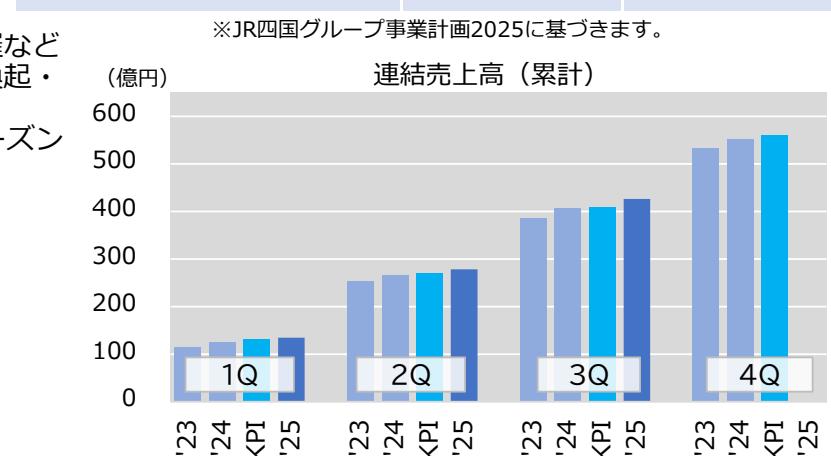


⑦ 連結売上高の確保

3Q KPI	実績	達成状況	2025年度 KGI	実績	達成状況
連結売上高（累計） 409億円	426億円	104.2% ○	連結売上高※ 560億円		

- ◆検証結果
- 瀬戸内国際芸術祭や大阪・関西万博、あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などにあわせた各種施策に取り組み、鉄道、ホテル、飲食・物販を中心に需要の喚起・確保に努めました。
 - 「高松オルネ」や「JR松山駅だんだん通り」での継続的なイベント開催、シーズンプロモーションなどに取り組み、収益の確保・拡大に努めました。
 - これらの取組みにより、KPIを達成しました。

- ◆今後の取組み
- グループ一体で収益拡大に向けた取組みを継続し、連結売上高を確保します。

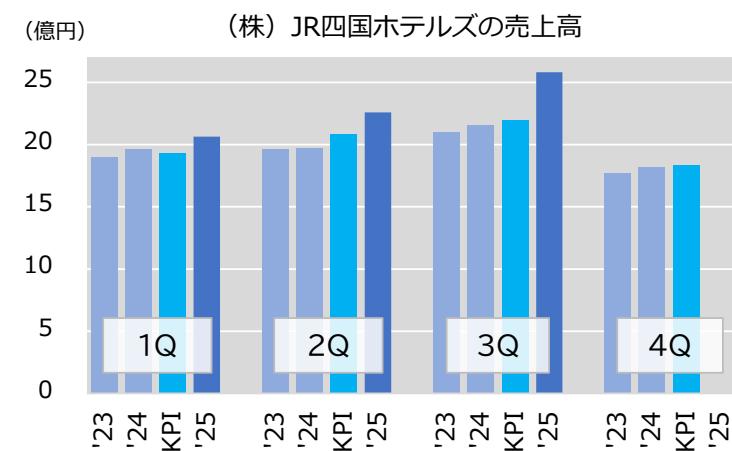


2. (4) 2025年度第3四半期の実績等

⑧ (株) JR四国ホテルズの売上高

3Q KPI		実績	達成状況	2025年度 KGI			実績	達成状況
売上高	21.9億円	25.8億円	117.4% ○	売上高	80.4億円			

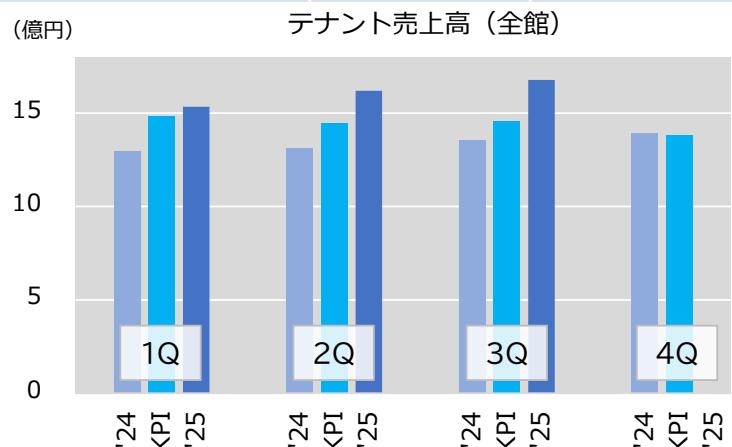
- ◆検証結果
- 秋の観光シーズンによる増加や、瀬戸内国際芸術祭の特需に加え、あなぶきアリーナ香川のイベントに伴う需要拡大も見込めたことから、宿泊部門を中心に売上確保に取り組んだ結果、計画を上回ることができました。
 - 訪日外国人客について、中国は減少傾向となりましたが、台湾からは引き続き好調な結果となりました。
- ◆今後の取組み
- 宿泊部門は、引き続き好調な台湾からの訪日外国人客の積極的な獲得と、レバニューアマネジメントシステム等を活用し、売上の最大化と収益確保に取り組みます。
 - レストラン部門は、適正原価の維持に努めながら、季節メニュー等の販売で売上確保に努めます。
 - 宴会部門は、単価アップと適正なコスト管理を徹底するとともに、新規顧客へのセールス、過去利用顧客への再セールスを行い、件数確保にも取り組みます。



⑨ 高松オルネのテナント売上高

3Q KPI		実績	達成状況	2025年度 KGI			実績	達成状況
テナント売上高 (全館)	14.5億円	16.7億円	115.4% ○	テナント売上高 (全館)	57.6億円			

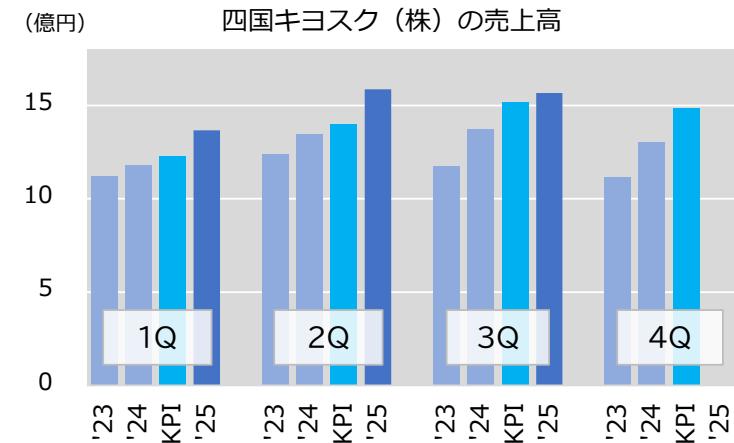
- ◆検証結果
- あなぶきアリーナ香川イベント、瀬戸内国際芸術祭（秋会期 10/3～11/9）、徳島文理大学高松駅キャンパス（2025年4月開校）、隣接地で初開催されたクリスマスマーケット（12/12～25）の影響により、入館者数の増加傾向は継続。期間を通して来街者や学生との親和性の高い業種（土産、生活文化雑貨、スーパー、飲食店）が好調に推移しました。
 - 期間中のテナント売上高は、1,678百万円（北館1,234千円、南館444百万円）であり、計画比115.4%（北館117.0%、南館111.3%）と好調に推移しました。また、入館者数においても、上記の外部環境の好転及び館内イベントの実施や周辺イベントとの連携等の結果、2,541千人となり、計画比109.7%（北館108.6%、南館114.1%）でした。
 - 1日平均27,620名であり、昨年度の平均値22,563名を5,057名上回り、好調に推移しました。
- ◆今後の取組み
- イベント開催、シーズンプロモーション等の展開により、周辺居住者、就業者、駅利用客等に対して来館の動機付けを行い、入館者数と売上の増加に努めます。具体策として、ライフスタイルを意識した館内装飾やSNSを活用したプロモーション、店舗の旬な商品・お得な情報のSNS発信を行います。また、周辺施設での大型イベント時の歓迎ムード演出をテナントに促し、おもてなしの雰囲気を活性化させ、お客様の購買意欲の高揚に繋げます。
 - 実績を踏まえ、契約満了等に伴いMD計画を再検討し、テナント誘致活動を継続します。



2. (4) 2025年度第3四半期の実績等

⑩ 四国キヨスク（株）の売上高

3Q KPI		実績	達成状況	2025年度 KGI			実績	達成状況
売上高	15.1億円	15.6億円	103.1% ○	売上高	56.3億円	(億円)	四国キヨスク（株）の売上高	
◆検証結果				売上高	56.3億円			
<ul style="list-style-type: none"> コンビニ店舗は、瀬戸内国際芸術祭、あなぶきアリーナ香川でのイベント及びインバウンド効果などの外的要因、並びにセブン-イレブンの販売促進策「プライチ」、「ブラックフライデー」などに積極的に取り組んだ結果、計画を上回ることができました。また、年末予約商品のセールスも好調に推移しました。（計画比102%） 土産店舗は、コンビニ店舗同様の外的要因、PB商品の開発（グリコポッキー、アンパンマン列車ハンカチ）、話題・限定商品のコーナー展開及び売場の拡張などに取り組んだ結果、計画を上回ることができました。（計画比104%） TSUTAYA BOOKSTOREは、文具・雑貨コーナーにおいてPOPUP企画商品、瀬戸内国際芸術祭関連雑貨及び有名絵本作家の作品などの陳列販売に取り組みました。シェアラウンジにおいては、学生利用の増加を図るため、割引回数券の販売促進などに努めました。また、11月1日から料金改定を実施した結果、計画を上回ることができました。（計画比135%） これらの取組みによりKPIを達成しました。 								
◆今後の取組み				売上高	56.3億円			
<ul style="list-style-type: none"> コンビニ店舗では、店舗運営のレベルアップに努めるとともに、お客様のニーズに合った品揃えを行い、また、TVCMと連動した新規商品キャンペーンに取り組みます。 土産店舗では、引き続き新規商品、話題商品、全国のキヨスク会社との連携等による限定商品及び地元素材などを使用した商品の開発に取り組みます。 TSUTAYA BOOKSTOREでは、話題商品のPOPUP企画に取り組みます。シェアラウンジでは、独自イベントの開催など話題性のあるイベント企画に取り組みます。 								



⑪ コスト削減の取組み

3Q KPI		実績	達成状況	2025年度 KGI			実績	達成状況
コスト削減	JR四国 グループ会社	▲60百万円 ▲5百万円	▲77百万円 ▲13百万円	○	コスト削減	JR四国 グループ会社	▲219百万円 ▲20百万円	
◆検証結果	(JR四国) (グループ会社)							

- ◆検証結果 (JR四国)
 - 業務のデジタル化による旅費・会議費・印刷コスト等の削減や、安全に影響しない修繕費の見直し等のコスト削減に取り組みました。

(グループ会社)

 - 各社において、要員の見直しや広告宣伝費の削減等に取り組みました。

- ◆今後の取組み
- これまでの施策を継続するとともに、車両部品の検査周期延伸の更なる拡大など新たな施策も検討し、引き続きコスト削減に努めます。